

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4571700543		
法人名	社会福祉法人豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットさつき		
所在地	宮崎県北諸県郡三股町樺山4845番地8 (電話) 0986-51-3993		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月25日

【情報提供票より】(平成21年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年10月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤11人, 非常勤4人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,500円	その他の経費(月額)	実費円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 350円
	夕食	386円	おやつ 100円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成21年7月27日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	4	要介護2	2		
要介護3	9	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.5歳	最低	75歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊栄クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りは住宅地でありながら、まだあちこちに畑があり、穏やかな風景の中にホームが建てられている。利用者の五感を大切に、地域の中でその人らしい暮らしができるようにとの理念の下に管理者、職員は一体となってサービスの向上に取り組んでいる。管理者は人材育成に積極的で、年間の研修計画を立て、法人内・外の研修に数多く参加させレベルアップを図っている。また、地域住民との交流を積極的に図り、利用者と地域住民の温かなふれあいができている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題として取り上げられたものに対して、改善シートを活用し、全職員で情報を共有して、改善に向けた取り組みが計画的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を全職員が理解しており、全員で自己評価に取り組み、日ごろのケアを確認することで評価の意義の理解を深め、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者やホームの活動状況、年間行事の計画、実施報告、評価への取組状況やその他の意見など、幅広い協議が行われそこでの意見がサービスの向上に生かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	担当職員は毎月手書きのホーム便りを作り、利用者のホームでの生活状況を伝えている。家族の来訪時には近況について詳細に報告するとともに、意見や苦情が出しやすい雰囲気作りにも心がけている。また、家族会の組織もあり、年に1回の総会では家族の率直な意見交換が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや色々な行事にも参加し、毎朝の散歩の折には地域の方と気軽に言葉を交している。また、住民の協力で休憩所を提供していただく等、温かな交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、利用者の五感を大切に、住み慣れた地域でその人らしい生き生きとした暮らしが送れるようホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念に沿った支援ができるように、日常の中で理念に触れ、具体的にケアに生かしていくことを意識した取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや色々な行事にも参加し、毎朝の散歩の折には地域の方と気軽に言葉を交わし合っている。また、住民の協力で休憩所を提供していただく等、温かな交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解しており、全員で自己評価に取り組み、日ごろのケアを確認することで評価の意義について理解を深め、改善にも取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者やホームの活動状況、年間行事の計画、実施報告、評価への取り組み状況等、幅広い協議が行われ、そこでの意見をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加のほかに、ホームの実情やケアサービスへの取り組みの相談等で常に連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当職員は毎月手書きのホーム便りを作り、利用者のホームでの生活状況を伝えている。また、家族の来訪時には近況について詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や家族参加の行事を開催し、意見や苦情の出しやすい雰囲気作りを心がけている。また、アンケートによる意見や意見箱を設置するなど、出された意見や苦情に対し前向きにとらえ運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合は、利用者や家族には十分な説明を行い、職員交代による利用者へのダメージを極力避ける配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修の年間計画が立てられ、全職員が研修を受けられる体制が取られている。グループホーム内でも研修が毎月行われ、それらの研修報告を全体会議で発表する機会が設けられる等、研修内容の共有化が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者が1つしかなく活発な交流が図れない状況である。法人の同一グループ同士での交流や勉強会は定期的に行っている。	○	隣接する地区の事業所との交流や勉強会を通じ意見交換等を図り、情報を得てサービスの向上につなげてほしい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの雰囲気になじめるように、家族とともにホームを見学し、職員や利用者と触れ合うことで、本人が納得して利用できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の安心と納得のいく支援を大切にし、人生の経験者として尊敬し、常に寄り合い支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日ごろの暮らしの中での会話や表情で利用者の求める事を理解し、思いや希望に沿えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め本人、家族、担当職員の意見を大切にしたい意見交換を行い、利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合は、本人、家族、職員全員で見直し、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を生かし、通院支援、特別な外出支援など柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医療機関の受診と定期的な訪問診療を受けているが、以前からの掛かりつけ医の受診支援も行っている。医療機関との関係作りも積極的に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針を定め、家族には納得のいく十分な説明を行い理解を得ている。また、全職員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者へのさりげない声かけや対応に配慮している。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて、その日の本人の気持ちを尊重し、利用者のペースにあわせ、ゆとりを持った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理から後片づけまで、利用者の持っている能力に応じた支援が行われている。頂いた野菜やホームの畑で収穫したもので一品を加えるなどの工夫がされている。職員も同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の気持ちを大切に、言葉かけや対応の工夫を行いながら、毎日の入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意としていることを日々の暮らしの中で把握するとともに、これまでの経験や知恵を発揮できるよう支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を中心に、天気、利用者の気分や希望に応じて買い物やドライブ等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについて、職員は十分理解できているが、建物の構造上職員の目が届かない部分がある。玄関にチャイムの設置を検討中である。	○	最近エスケープの事例があり、職員も不安を抱えている。建物の構造上の問題解決は困難を伴うが、利用者の十分な見守りと玄関にチャイムを取りつける等の対策を早急に進めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が実施され、地域住民の協力体制も整っている。災害マニュアルも作成されている。また、夜間を想定した災害訓練も近々予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。管理栄養士のアドバイスももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎ、一日を居心地良く過ごせる空間になっている。季節感を感じる掲示物や花が生けてあるなど、落ち着いた雰囲気の中で穏やかな生活ができるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具類、家族の写真、使いたれたなじみの物が持ち込まれ、安らぎのある生活が送れるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。